

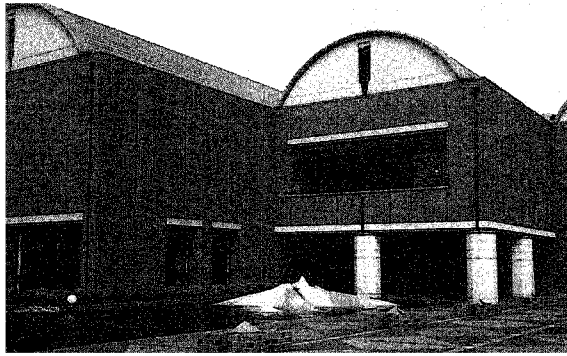
都留と近代文学

都留文科大初等教育学科教授 関口安義

甲府市貞川の芸術の森公園には、山梨県の誇る二つの立派な文化施設がある。言うまでもなく県立の美術館と文学館である。ミレーで知られる美術館に続いて、一昨年（一九八九）の十一月三日に芥川龍之介と飯田蛇笏の資料を目玉にした文学館が開館するにいたって、山梨県は一挙に文化後進県から先進県へと移行したかの感がある。

ところで、山梨県立文学館では芥川龍之介のような国民的作家の資料収集に努めるとともに、当然のことながら山梨県出身の作家、さらにはゆかりの作家の資料もできるだけ集めようと努力している。むろん都留文科大のある都留市、さらには郡内地区出身の作家も含まれる。

わたしは二〇二二年「日本語・日本文学概論」という講義のはじめの時間に、「山梨と近代文学」の話をしている。その中には「都留と近代文学」の一項もある。まずは河口湖町出身の中村星湖の「少年行」を取り上げ、ここには谷村町のことや谷村の小学校で学んだ少年が出て来る、河口湖畔の村の少年と谷村町出身の町の少年、二人の対比でこの小説は書き進められていることを紹介していくと学生は非常に興味を示す。



山梨県立文学館

次に「火宅の人」の壇一雄は谷村町の生まれで、当時父親は谷村の工業試験所に技師として勤めていたとか、山本周五郎は隣の大月市（初狩）の生まれで、祖先は同じ山梨の韭崎なのに、生涯甲州と甲州人を拒否し、出生地について語ることを好まず、隠していたと話す学生は目を丸くしてしまふ。ついでに山梨県立文学館の芥川資料にふれ、実父新原敏三が経営に関係した耕牧舎という牛乳販売業の牧場の一つが谷村町にあったという事実を知らせ、さらに龍之介は明治四十五年（一九一三）四

月、友人西川英次郎と大月から徒歩で谷村町の街道を歩いて下吉田まで行き、小菊という旅館に泊まったことなども紹介する。富士の裾野を散策したときのことである。

「都留と近代文学」のテーマで落とすことのできない人は、宝出身の鳴山草平（本名前田好照）である。山梨県立農林学校や神奈川県立平塚高等学校等で教師をしながら創作を志し、昭和十四年（一九三九）、「新青年」の懸賞小説に『極楽剣法』が入選、以後『風の隠密』などの時代小説、『きんぴら先生青春記』などの学園もの、それに『出張社員』シリーズのサラリーマンものを書き、人氣を博した。昭和十年代から三十年代にかけて活躍をした作家である。国会図書館のカードを繰ると百冊に及ぶ著書がある。

わたしは大学の図書館に鳴山草平文庫と称したコーナーをつくり、彼の著作の全てを集めたいとの夢を抱く。著作目録すらないのだが、これは時間をかければ出来る。また、今なら市民の間に関係者も多数生存している。それらの方々からこの作家にかかわる情報を得、きちんとした年譜の作成も必要だ。原稿など関係資料の収集も急がないと散逸する。

没後二十年を経て、都留市の生んだ作家鳴山草平の人と文学の再評価は、学生も含めてこのまじにかかわる者の責務と言えるのかも知れない。

都留文科大社会学科

十二月の特別講義を公開します

都留文科大社会学科では、毎年、各界の権威を講師に迎え、短期集中で特別講義をしています。

【特別講義Ⅲ】

講義期間 12月14日(土)、16日(月)、17日(火)

講師 一橋大学社会学部教授 佐々木潤之介氏

講義のテーマ 江戸時代編(予定)

なお佐々木先生の書かれた参考書としては、「大名と百姓」(中央公論社)、「世直し」(岩波新書)など啓蒙的著書のほか、「幕藩権力の基礎構造」(お茶の水書房)、「幕藩国家論」(東大出版会)、「幕末社会論」(塙書房)などがあります。

講義時間 いずれも午前9時から午後4時まで

受講資格 特に制限はありません。受講料は無料です。

受講申込方法 都留文科大社会学科事務室にて、電話で申し込みを受け付けます。受講希望の科目および氏名・住所・電話番号・年齢をお知らせください。

【受付期間】 12月11日(水)～13日(金) 午前9時～11時・午後1時～4時

その他 受講者には、それぞれ講義初日の8時45分に大学入口の守衛室のところで受講証をお渡しします。大学構内への出入りの際は、それを守衛係員にご提示ください。

公開する講義科目

【特別講義Ⅱ】

講義期間 12月19日(木)～21日(土)

講師 愛知大学法学部教授 小川利夫氏

講義の概要はつぎのとおり。

○生涯学習の歴史と思想

○生涯学習の歴史と思想

○生涯学習の歴史と思想

○生涯学習の歴史と思想

○生涯学習の歴史と思想